

私に云、右御船御乗初、正月八日と定られたは、御初入御着岸の御吉例より始し處、其後延寶九年四月八日、將軍家の御日柄を憚らせ給ひて、同月十五日に轉せられ、深尾因幡殿御名代を勤られし事左の如し、慶長六年より天和元年迄、中間八十一年也。

〔御當家略年代記〕元祿十六癸未、御船御乗初、當年より正月十六日に被仰付、是迄十五日也。天和元年より元祿十六年迄、中間二十三年也。

〔東潛夫論下〕當時諸侯ノ國、文事ニモ非ズ、武備ニモ非ズ、昔ヨリ仕來リシコト甚ダ多シ、其一ニヲ舉ゲバ、謳初メ、鼓初メ、舟乘リ初メ、應狩初メ、此等ノコト初メ、ミナ益ナキコトナリ、

七日  
名稱

〔下學集上〕時節人日荆楚歲時記矣、或書曰、人日、以七種菜作羹、食之、則諸人無病患也、

〔書言字考節用集二〕時候人日見又云靈辰、正月七日也、事

〔月令廣義正〕月初七日、人日、主人

〔荆楚歲時記〕正月七日爲人日、以七種菜爲羹、剪綵爲人、或鏤金薄爲人、以貼屏風、亦戴之頭鬢、又造華勝以相遺、登高賦詩、按、董勛問禮俗曰、正月一日爲鷄、二日爲狗、三日爲羊、四日爲豬、五日爲牛、

六日爲馬、七日爲人、正旦晝雞於門、七日帖人於帳、今一日不殺雞、二日不殺狗、三日不殺羊、四日不殺豬、五日不殺牛、六日不殺馬、七日不殺人、亦此義也、古乃磔雞、今則不殺、

七種粥

〔二中歷歲時〕節日由緒 七日採七種羹七日七種羹、先嘗、除邪氣之術也、

〔瑤囊抄一〕正月七日、七草、アツモノト云ハ、七種、何々、七種ト云ハ、異說アル歟、不一准、或歌ニハ、セリナヅナ五行タビラク、佛座アシナミ、ナシ是ヤ七種、芹五行ナヅナハコベラ佛座ス、ナミミナシ是ヤ七クサ、又或日記ニハ、薺ナシハコベラ、萸、五行、ス、シロ、佛座、田ビラコ、是等也ト云々、但正月七日七草ヲ獻ズト云事更ニナシ、年中行事ニハ、七日、白馬節會及叙位事、兵部省御弓奏事ト許、記シテ、七草ト云事ナシ、十五日ニコソ獻七種御粥事ト註シ侍レ、又資隆卿八條院書進、簾中鈔此定也、彼